

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

転入学試験問題（B・Cコース） 法律科目試験

（民法）

次の（設例）を読んで、問（1）から（4）に答えなさい。

（設例）

1. 老舗旅館を営業するAは、営業資金捻出のため祖父の代から所有する絵画甲を画商Bに売却し、これを引き渡した。その際、Bの連れてきた絵画鑑定家と称するMの鑑定評価を参考に代金を50万円とし、その支払いを受けた。しかし、Mは実際はBの仲間であり、鑑定による評価なるものはBにより仕組まれたものであった。
2. その後、Aは、絵画甲の作者について詳しい知識を持つ画商Pから、絵画甲は少なくとも500万円は下らない価値のあるものであると聞いて、Mの言に欺されて売却の意思表示をしたと気がついた。
3. そこで、AはBに対して絵画甲の売却の意思表示を取り消し、その返還を求めた。
4. この返還請求から1ヶ月経った頃に、BはAに回答をよこして、絵画甲は絵画の蒐集家であるCに600万円で売却し引き渡しているので返還することは出来ないと述べた。
5. そこで、AはCに対して、絵画甲の返還を求めた。
6. Cは、その間に、絵画甲の額縁の傷んでいる箇所を専門家に修理させ、対価として30万円を支出していた。

問（1）（配点：30点）

AはCに対して絵画甲の返還を求めるため、どのような法的な主張をすることになるか、検討しなさい。

問（2）（配点：30点）

Cはどのような事情を主張し、証明することで、Aの返還請求に対抗することになるか。Cの絵画甲のBからの取得がAの取消前であった場合と、Aの取消後であった場合と、二つの場合に分けて論じなさい。

問（3）（配点：20点）

かりに、Cの主張が認められて、AがCから絵画甲を取り戻せないことが確定した場合、Aは誰に対してどのような内容の主張をして、絵画甲を失った損失の回復を図ることになるか検討しなさい。

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

転入学試験問題 (B・Cコース) 法律科目試験
(民法)

問(4) (配点: 20点)

かりに, Cの主張が認められず, CがAに絵画甲を返還すべきことに確定した場合, Cが支出した30万円の修理費をめぐって, AとCとの間にいかなる法律関係が生ずるか検討しなさい。また, CがAに絵画甲を返還した場合, BとCとの間にいかなる法律関係が生ずるか検討しなさい。